

「異文化理解」(2年生)

木村政子
土方伸子(文責)

1. はじめに

今年度は、タイからの留学生1名を含め、15名の生徒で週1時間の授業を行った。短い授業時間、2年生になって初めてこの授業を履修する生徒たちという条件は、昨年度の生徒たちと同じであった。

昨年度の反省として、授業内容が盛り沢山で、まとめや生徒が理解を深める時間を十分に確保することができなかった、1年生で基礎的な知識の積み上げがない生徒たちに対して、進度を調整する配慮に欠けていたなどがあった。(本稿紀要48号参照)

したがって、今年度は、年間計画にこだわり過ぎず、生徒たちの様子を見つつ、必要に応じて理解を深めるディスカッションの時間を確保するなど、柔軟な授業展開を心がけながら実践を行った。

2. 年間授業計画および実践内容の比較

<1学期授業計画>

	回	月 日	授 業 計 画	
1 学 期	1	4月11日	授業内容概略説明、生徒自己紹介、グループを分け、(留学生へのインタビュー(英語+日本語))	
	2	18日	<School班> 留学生へのインタビュー(英語+日本語)&まとめ(全員)	
	3	25日	<Daily life班> 留学生へのインタビュー(英語+日本語)&まとめ(全員)	
	4	5月2日	留学生・外国人生徒による日本人生徒への質問、次週(各国の遊び)予告&グループ分け(3班)	
	5	16日	各国の遊び、食文化準備(各国の遊びと同じグループで、英語・日本語のレシピを作成)	
	6	30日	国際協力事業団、青年海外協力隊、MTG(MTG発行の記事を眺める)、夏休みのレポートについての説明	
	7	6月6日	食文化(中国、タイ、日本)に触れる~その1~(調理実習)	協力隊員に初メール送る
	8	13日	鷹野校長お話「初海外旅行(イラン)で見て・聞いて・味わって・感じたこと」	
	9	20日	青年海外協力隊OGのお話「マラウイで見て・聞いて・味わって・感じたくえっ、変!何これ違う?>」	
	10	27日	VIDEO「豚の解体」、夏休みレポートテーマ決定	宿題:ブータンに送る10項目アンケート&手紙
	11	7月4日	ブータンと日本の10項目アンケートを比較	
	12	11日	VIDEO「地球家族:ブータン王国(20分)」	
夏 休 み		課題:「えっ、変!何これ違う???と思ったことを実際に体験して」		

< 1 学期実践内容 >

	回	月 日	実 践 内 容	
1 学 期	1	4月11日	授業内容概略説明、生徒自己紹介、グループを分け、(留学生へのインタビュー (英語+日本語))	
	2	18日	<School班> 留学生へのインタビュー (英語+日本語) &まとめ (全員)	
	3	25日	<Daily life班> 留学生へのインタビュー (英語+日本語) &まとめ (全員)	
	4	5月2日	留学生・外国人生徒による日本人生徒への質問、次週 (各国の遊び) 予告&グループ分け (3班)	
	5	16日	各国の遊び、食文化準備 (各国の遊びと同じグループで、英語・日本語のレシピを作成)	
	6	30日	国際協力事業団、青年海外協力隊、MTG (MTG発行の記事を眺める)、夏休みのレポートについての説明	
	7	6月6日	食文化 (中国、タイ、日本) に触れる~その1~ (調理実習)	協力隊員に初メール送る
	8	13日	鷹野校長お話「初海外旅行 (イラン) で見て・聞いて・味わって・感じたこと」	
	9	20日	青年海外協力隊OGのお話「マラウイで見て・聞いて・味わって・感じたくえっ、変!何これ違う?>」	
	10	27日	20日の話についてのディスカッションI	宿題:ブータンに送る10項目のアンケート&手紙を書いてくる
	11	7月4日	20日の話についてのディスカッションII	
	12	11日	夏休みレポートについて、ブータンの高校生の自己紹介文配布、前回までのディスカッションの感想文回収	
夏 休 み		課題:「えっ、変!何これ違う???>と思ったことを実際に体験して」		

※ は、授業計画を変更した箇所である。

○青年海外協力隊OGの講演について

1学期前半は、日本語がまだ十分に理解できない留学生も授業に参加しやすいように、留学生を囲んでのインタビューや各国の遊び、食文化などを行った。1学期後半、当初の予定では、日頃身近に感じていない国々や様々な違いといったものに目を向けるよう、導入的な内容として、青年海外協力隊OGの講演、ブータン王国についてのVIDEO視聴などを計画していた。しかし、この青年海外協力隊OGの講演というのが、あまりにも飾らない、現実をありのままに伝える内容であったため、生徒たちは、理想と現実のギャップに大きなショックを受けることとなった。講演後、明らかに生徒たちの頭は混乱していた。したがって、翌週からの授業内容を変更し、頭を整理させるためにもディスカッションを行うことにした。生徒たちは、感じたことや疑問に思ったことなどを自由に発言した。仲間の発言に対し別の角度から意見を述べる生徒が出てきて、予想以上に活発な議論が展開された。仲間の意見を聞く中で、自分の考えを揺さぶられたり、新たな物の見方をするようになったりした生徒もいた。初めて生徒たちの口から、「国際協力ってなに?」「異文化理解ってなに?」という言葉が出始めた。(資料1参照)

< 2 学期授業計画 >

	回	月 日	授 業 計 画
2 学 期	1	9月5日	夏休みレポートブリーフプレゼンテーション、9月8日ガーナ高校生来日交流会準備、MLCの現状報告 協力隊員とのメール交換の進捗確認←(冬休みの課題レポート頭出しとメール対策のすすめ)
	9月8日(月) 16:00~19:00 ガーナ高校生来日交流会		
	2	12日	3ヶ国の比較Ⅰ ・3ヶ国のアンケート集計(班別で付箋貼り) ・班別で違いをディスカッション&発表
	3	19日	3ヶ国の比較Ⅱ ・3ヶ国比較プリントを読み、共通点や相違点についてなぜ?をディスカッション
	4	10月3日	体験してみようⅠ
	5	17日	体験してみようⅡ OR 冬休みレポート内容について、班別でこれまでのメール交換内容について情報交換
	6	31日	テーマの調整&決定とそれに基づく調べ学習(コンピューター使用可)
	7	11月7日	国際協力プラザ訪問
	8	21日	イスラーム文化に触れる(日本イスラーム文化センター(大塚モスク)訪問)
	9	28日	留学生送別会、冬休み課題レポートについて 課題:留学生へのお手紙
10	12月5日	留学生お別れ会(食文化)	

< 2 学期実践内容 >

	回	月 日	実 践 内 容
2 学 期	1	9月5日	夏休みレポートブリーフプレゼンテーション、9月8日ガーナ高校生来日交流会準備、MLCの現状報告 協力隊員とのメール交換の進捗確認←(冬休みの課題レポート頭出しとメール対策のすすめ)
	9月8日(月) 16:00~19:00 ガーナ高校生来日交流会		
	2	12日	3ヶ国の比較Ⅰ ・3ヶ国(日本・ブータン・オーストラリア)のアンケート集計(班別で付箋貼り)
	3	19日	3ヶ国の比較Ⅱ ・日本とブータンの共通点・相違点についてディスカッション
	4	10月3日	3ヶ国の比較Ⅲ ・日本とブータンとオーストラリアの共通点・相違点についてディスカッション
	5	17日	体験してみようⅠ<食文化> ~ブータン・ネパール・ラオス~
	6	31日	冬休みレポートの内容について、これまでのメール交換内容について情報交換(班別) テーマの調整&決定とそれに基づく調べ学習(コンピューター使用可)
	7	11月7日	国際協力プラザ訪問
	8	21日	VIDEO<宗教>
	9	28日	イスラーム文化に触れる(日本イスラーム文化センター(大塚モスク)訪問)
10	12月5日	大塚モスクの感想、留学生送別会<食文化>について、冬休みレポートについて	

※ は、授業計画を変更した箇所である。

○ガーナ高校生来日交流会に参加して

平成15年9月8日（月）、JICA国際協力事業団（現国際協力機構）の依頼を受け、「異文化理解」及び「国際理解とジェンダー」を履修している2年生希望生徒が、招聘事業の一環で来日したガーナ高校生との交流会に参加した。日頃から、頭の中では『異文化を理解したい!』と強く願っている生徒たちであったが、今回のように20名を越えるガーナの男子高校生たちの英語や部族語を耳にし、アフリカの食事をとるといったあまりにも非日常的な環境では、さすがにカルチャーショックを隠せなかったようだ。本当に異文化を理解することがいかに難しいかということを感じ取ることができた貴重な経験であった。（資料2参照）

○（宗）日本イスラーム文化センター（大塚モスク）の訪問について

当初の予定では、ラマダン最中の11月21日（金）に日本イスラーム文化センター（大塚モスク）を訪問し、イスラム教についての話を聞いた後、イフタール（日没後にとる食事）に参加させて頂くことになっていた。数名の生徒は、ラマダンの雰囲気少しでも味わうため、朝から食事を摂らないでこの訪問に臨んだ。しかし、当日朝、対応して下さる方がいないという連絡が入り、訪問は11月28日（金）に延期された。訪問した日はラマダン明けであったので、話を聞くに留まり、イフタールへの参加の機会には恵まれなかった。

この訪問は、生徒たちにとってやや唐突過ぎた感があり、今年度の反省点の一つである。異文化理解の授業では、頭だけではなく、体験することで理解を深めることを重視している。イスラム教についても、イスラム教徒がラマダン期をどのような思いで迎えているのか、またどのような行為が行われるのかなどといったことを、実際にモスクを訪問し、イスラム教徒の方々から直接見聞きして理解を深めようと考えたのである。授業で訪問しない限り、個人的にモスクを訪問する機会はほとんどないため、良い機会であると考えていたが、結果的には、一昨年前の訪問で得られたような大きな収穫は得られなかった。理由は、お祈りの時間が途中で入ったこと、入信したばかりの日本人青年の入信に至った経緯の話が長かったこと、イフタールに参加できなかったことなどがある。生徒たちも、十分に事前学習をしないまま訪問をしたことに対して、不満な思いが残ったようである。体験重視型の授業とはいえ、次回訪問をする際は、もう少し生徒たちに事前学習をさせてから臨まなければ、学習効果は上がらないと感じた。（資料3参照）

< 3 学期授業計画および実践内容 >

	回	月 日	授 業 計 画 お よ び 実 践 内 容
3 学 期	1	1月9日	「留学生お別れパーティー」鍋料理（ちゃんこ・きりたんぼ鍋・しゃぶしゃぶ）& おしるこ
	2	16日	レポート発表について説明、グループで発表内容の調整、発表内容の骨子について各自まとめる
	3	23日	レポート発表 I <タンザニア>
	4	30日	レポート発表 I <ミクロネシア；ヤップ島>
	5	2月6日	レポート発表 I <ラオス> 任国事情 1分×グループ全員+（発表5分+質疑応答3分）×グループ全員
	6	20日	レポート発表からわかったこと、気づいたことなどについてディスカッション
	7	27日	卒業生 お話「あしなが育英会&ウガンダ共和国のエイズ問題に携わって」
	8	3月5日	1年間の授業を振り返って

※ 3 学期については、授業計画と実践内容に変更はなかった。

○レポート発表について

1 学期後半から、関西大学総合情報学部の MTG プロジェクトの一環で、現在活躍中の青年海外協力隊員とメール交換を行った。このメール交換では、本やテレビなどからでは得られないく生の声（情報）>を収集することができた。そのため、日本と途上国の生活環境に大きな違いがあるということ、生徒たちはより現実的に受けとめることができた。また、隊員のいる 3ヶ国を比較することで、途上国と言っても国が違えば、同じ国と言っても地域が違えば、生活環境や生活習慣なども大きく異なるということを実感することもできた。さらに、日本との共通点を見出すこともでき、今まで関心なかった国々がより身近に感じられるようになった。

生徒たちは、本などで調べた内容について、隊員に直接メールで確認をしたり、疑問に感じたことを尋ねたりしながら学習を進めたが、任国の通信事情や隊員個人の違いにより、メール交換が頻繁に行われたグループもあれば、ほとんど音信不通となってしまったグループもあり、グループによって進度に差が出てしまった。この点では反省が残るが、日本の生活環境では予測し難い事態が、途上国では当然のように起こり得るということを経験的に学習できたことは、異文化理解を学習する生徒たちにとって大変有効であったと考えている。（資料 4 参照）

3. 一年間の授業を終えて

今年度は、意見や感想を活発に述べる生徒が多かった。きっかけは、授業内容を変更して行った青年海外協力隊 OG 講演後のディスカッションである。生徒同士で意見をキャッチボールする雰囲気は授業の中に出てきて、生徒たちは物事を多面的に見るようになった。体験後の意見や感想を仲間と共有する時間を確保することは、より深い理解につながるということを改めて感じた。（資料 5 参照）

<資料3>

2. 11/28 金の大塚モスク訪問で、イスラーム文化やイスラム教について新たに知り得たこと、またはさらに疑問に思ったこと、感想など

私はお話を聞くまでイスラム教に対して偏見を持っていました。何からくる偏見なのかは自分でもよく分からないけれど、なんだか自分たちとはかけ離れたもののように思えてなりません。けれど話を聞いてみたら、偶像崇拜をしないといけないなどの理由がわかった気がします。他の宗教に比べてイスラム教が一番神との結び付きが強いと思いました。印象に残ったことは、「目的は永遠の来世」ということ。「原理主義はない!!」ということ。目的は永遠の来世というのにはどうも共感できないと思いました。やはり大切なのは今だと思えます。「原理主義はない」というのは信じられるかな、うんないよなという印象を受けました。日本のメディアが視聴者を引き付けるための用語なのかもしれないと思う反面、やはり口を封じていることは「他の宗教も認めている」と言っていたことと矛盾と思ったりです。イスラム教は前おかしな知識を得て身近な存在にはなつたと思うけど、やはり理解がたいこと、やはり宗教は奥が深すぎるため話を聞いていただけではやはりつかのなかつた。

2. 11/28 金の大塚モスク訪問で、イスラーム文化やイスラム教について新たに知り得たこと、またはさらに疑問に思ったこと、感想など

初めて実際にイスラム教女性たちから直接話を聞いて、教科書と違ってはわからなかつた様々なことを発見することができました。今まで「イスラム教」というものはすごい厳格で、規律ばかりの生活だと思っていました。でも実際は親を尊ぶにはしたが、でいるけれど、それほど私達の生活とかけはなれた生活を送っているわけではなないということがわかりました。またイスラム教を一言で印しているからといって他の宗教を嫌っていたりするのでは無いこと、互に誤解していたことがたくさんあるということに気がきました。今回のモスク訪問で、イスラム教のことをたくさん学んだのと同じように、教科書を読んだよりも習得した感じがすることと実際にそのもの人になることで、全然知らなかったことがわかったということに気がつくことができました。

2- () NO. () 氏名 ()

***** 発表を聞いてわかったこと・感じたことなど *****

今までの自分の語調の部分しか知らなかったが、同じ国の違う人の発表を聞いて、
わかったことがたくさんありました。全然知らない国のことを聞くお、少し自分と

同じ国の新たな面を発見する方が、逆に面白かった。上の面から見
時は「なんだ？」と疑問に思ったことも、様々な面から見ると「なるほど」と
納得できた気がします。自分がいろいろな国の感想を書いて気付いたんですけど、
やっぱり自分の感想は何だか偏ってるなあと思いました。ミコネアについて
は「カースト」、タンザニアについては「マサイの食事(血を食む)」という一点に
敏感に反応しました。もって違う所にも異文化を感じる部分はあったはず
なのに、なぜか強く興味と魅かれた気がします。それに、「カースト」や「マサイ
の食事」については多少の知識を持ち合わせていたので、異常なほどの失入
が見がありました。「カーストはなんてひどいものなんだ」「血を食むなんて信じら
れない」と思っていました。でも実際は、ミコネアでインドのカースト制は全く
と違っていいほど違っていいし、前回の授業で考えてみたら、自分達も血を全く食
べていないわけじゃないという事に気がきました。(生肉だて食べてますし…)。
マサイ族については、「族」とかいう名称がついているし、日本人野性的な感じが
したから、自分では分けて考えていたのかも知れません。

自分が調べたオーストリアについては、もう少し調べてみたいなと思いました。

2- () NO. () 氏名 ()

***** 発表を聞いてわかったこと・感じたことなど *****

● 他の方の話を聞いて、改めて気がついたこと・感じたこと
● 全体について

● 自身の予定が他の人とずれていたため、どの人の話を聞いていて

おもしろかったか。何を基に聞いたのか、「医療-保健分野における援助」
というところが難しかった。これはむしろ、今回のレポートで、どの国
について調べた上での段階です。まのだったような感じがします。本を読んだ
偉な統計データから得られるのは、星の暮らしを、他の人の発表で
知ることができました。

聞いてみておもしろい。と思つたのは、どの班にも「衣食住」と「調べた人が
必ずついた点」です。やはりその国の人々の生活を知りたいと思つた人は、人々が「食
食」たり着たり住んだりしているものを知らなかった。一番の近道な人だ。と思つた。
他に発表されたのは、伝統的な民話や習慣、年次度についてでした。これも
異文化を理解する上で、知っておくべきことだと思つた。どの国の人が何をどの
思っているのか、少し見えてくるような気がしました。

今回ふと思ったことはいくつかありまし。異文化と理解する上で、私たちがどういった事を
調べるというには、逆に、私たちが他国の人がどういった事を
説明すれば、どの人たちの日本への理解を深めてくれるか、自然にその人たちが
ということだ。異文化理解をしようとする、自然にその人たちがコミュニケーション
相手も理解するたけでなく、自分たちのことを紹介しなれば、いいなと思つた。(これはど
メール交換や交流を通じての理解だ。) どの人、主として和介さん、理解と関心を深めてもら
たかには、まず、自由の心、日本のことを理解して頂くことも大切だ。これはいいな。ううが、と
思いました。

● これまで全く、おもしろい知識がなかった国について、その暮らし、リヤイイ、環境の様子
を知ること、E「い」は、おもしろい。役「」を、つがたに、か「」で、ま「」は、おもしろい。す「」と、その国について
も、詳しく、おもしろい。と、な「」が、知「」たい。という、気持ち、か「」湧いて、ま「」ま「」しい。ま「」した。
日本、ア「」の国々。世界、の国々。関「」心、の「」赴「」く、ま「」ま「」に、い「」も「」と、知「」ら「」れた。い「」ま「」方。

● 4月の自分と今の自分はどう変わったか？

私は始め、アメリカやヨーロッパの国々のようないわゆる大国の文化を知りたいと思っこの授業を選んだ。だから最初の方は、自分のやりたいことと違うかな...と少し思ったこともあったけれど、今から考えると、そういうことは、この授業をとらなければ絶対自分ではできなかつたし、知ることができなかつたことだと思ふ。例えば、自分のお話を聞いて、メモに作ったり、ガーナとの交流会に行ったりすることによって自分の思いが変化した。私は国際的なボランティアについて何かやってみたいなと思っつけたし、それは絶対いいことで、ためになることなんだ！と確信していたけれど、...さんの話を聞いた後は、何が本当の援助で、何が本当に一番いいか、ということを疑問に感じ、援助やボランティアの難しさを実感した。ガーナの交流会も、この授業を受けていなかったら行くことは思わなかつただろう。でも実際に、一番印象に残ったのがこの交流会で、「異文化理解」はイメージしているほど簡単なことではなかつた。また、普段「自分が日本人だ」という意識はあまりないけれど、ガーナの人と話した時にそれをすごく実感した。まとめると、4月の私は「異文化理解」というものを勉強したり志望するところにおいて誰でもできるようなものには感じていたり、ボランティアの難やかな面ばかり見ている気がするけれど、今はもっと全ては複雑でいろいろな面がある、という感じが少しだけわかった気がする。また、今更自分が興味を持った国（アジアやアフリカなど）についてももっと知りたいと思っようになった。

● 一年間、異文化理解IIの授業に参加して、感じたこと、考えたこと

左側にも書いていたけれど、「理解する」ということは「イメージしただけ」と難しくいというんだ。世界にはさまざまな国や文化があふれている、その一つ一つにはそれぞれ歴史があって、その中で暮らす人やその環境、特徴などはいまだ聞いて事実を知るだけでは到底知りえないのだと思っただ。でもだからといって「知る」という意味がなかわかなくて、「知る」ということがあって初めて「理解」があるのだ。だから、これからはこの授業で「理解すること」はできない。だから、これからはこの授業でピックアップした情報や分野を参考にしたり、きっかけにして、いろいろな文化について興味を持って調べるなり、さらにその国に行ってみたりと思っっている。まずは同じアジアにある国から見ていきたい。最後に、この前の授業で先生がおっしゃっていた「外国の文化だけが異文化ではない」という言葉が印象に残った。日本にも異文化と解れる機会はいっぱいあるのかな、と思った。自分と全然違う考えを持つた人(会)ことはこれからはたくさんあると思っかけて、よくこの人はこうだ!!と決めつけたりするのではなく、その人のいろいろな面を見れるようにしたい。

● 授業の中でもっと取り上げて欲しいこと、やってみて良かったことなど

ガーナの交流会のよきな交流会にもっと行けるようになってほしいなと思っった。(やっぱり実際外国人と会って考えることは多いと思っうので。)

● 4月の自分と今の自分はどうか変わったか？

もっていろんなところに目を向けようと思いました。

今まで外国といえば興味のある国は、アメリカやヨーロッパなど、有名なところばかりでした。

どこか外国＝アメリカ、ヨーロッパという考えが頭の中にあると、異文化の授業でもいろいろ

のことややるだろうなと勝手に思っていました。でも、授業では全く聞いていないほどむい

国のことはやらず、ラス・カガニア、ミロトリアなど、今まで聞かされたことのないような国

のことについて調べたり、意見交換したり…。最初は正直言って、「もっとメジャーな国や文化、

とゆつこく思っていました。でも、調べていくうちに、その国についての知識が増えて

いって、いろいろな面で驚かされたり、深く考えさせられたり、自然とその魅力にはまって

たような気がします。今まで外国＝アメリカ、ヨーロッパだと考えていた自分がなかなか

バカらしく思うようになってきました。

それに矢張り元青年海外協力隊の方の話も聞いたことで、やっぱり実際に行って、

この目で見て、その国の匂いとかも肌で感じてみたいと思ったりになりました。いくら

さん調べたり、聞いたりして「百聞は一見に如かず」だから！

先輩が言っていた「こんな世界が本当にあったんだ」という言葉が本当に心に残

ります。この言葉はたぶん私は一生忘れられないと思います。

今まで、どこか自分とは違う世界なんだが…と「自分を見の感想」の欄にすれ

言葉と並んでいた自分と、お別れができた気がすまい、これからはいろんな世界へ目を向

一つの物事でも違った面からいろんな見方ができるとなれば、本当にこの授業を

とって良かったとばかり思えます。

● 一年間、異文化理解Ⅱの授業に参加して、感じたこと、考えたこと

実際に国外で活動してまわりの人の話をかかると人間味が本当に良かった

と思います。先生も理解が深まりましたし、授業の雰囲気がアットホ

ムな感じだったので、私は異文化の授業が大好きです。確かして先生と

は本当に大変でしたし、正直やだなと思ってたりすることもあったけど、そういう経験は

自分の力になったと感じていて、今思えば良かったから、今思えば良かったと思

います。それに、先生もあつちからいまして、みんなが結構意見と積極的に話してく

るので、いろいろ考えたり持ってきたことができた気がします。私は本当に

その意見に対していろいろ考えたり持ってきたことができた気がします。私は本当に

で、あつちからいまして、みんなが結構意見と積極的に話してく

好みました。

しかも先生もあつちからいまして、みんなが結構意見と積極的に話してく

本当にありがたかったです。

● 授業の中でも取り上げて欲しかったこと、やってみたいことなど

発展途上の国ばかりだったので、もう少し、先進国のことについてもやっていた

です。あと、その時の世界情勢についても話し合いたかったです。